



## アマゾンの森から生まれたペーパークラフト

平たい板を傾けながら、中に入っている水をゆっくりと動かすブラジル人男性。何をしているのかと思っただけでみると、なんと、“紙”をすいているという。

地球の裏側、ブラジル北部にあるパラ州ベレン市。広大なアマゾン流域にあるこの街は、金採掘による水銀汚染や急速に進む森林伐採の影響で、深刻な環境問題に直面している。

そこに救いの手を差し伸べたのが、熊本県水俣市に住む“紙すき職人”の金刺潤平さん。誰もが知る「水俣病」に苦しんだ同市で約25年間、できるだけ化学薬品を用いずに、タマネギの皮からジーンズの切れ端まで、実にさま

ざまな素材の繊維から作る和紙の普及に取り組んできた。

そして2001年、環境を破壊することなく生計向上が図れる手段として、アマゾンの森を活用した紙づくりを提案。「植物がその後も生き続けられるよう、枝と葉のみを材料として使用し、根っこは残すようにしました」。

05年からはJICAの草の根技術協力事業を通じて、本格的に技術指導を開始。金刺さんの信念を受け継いだブラジルの職人たちは見る見るうちに腕を上げ、ついに商品化にも成功した。「学校にも通えなかった人たちが、自主的に勉強会を開いて学んでいる。その意欲には驚きです」と金刺さんはう

れしそうに話す。

アマゾンの森から生まれたペーパークラフト。手に取ると、職人の思いが込められた“紙”の温かいぬくもりが伝わってくる。



現地の工房で、金刺さん(中央)が紙すきの技を伝授

★写真立て、メモ帳入れを各1人、グリーティングカードを5人にプレゼント! 詳細は38ページへ

